

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社 くおん		
事業所名	グループホーム くおん 【A棟】		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下 108番地		
自己評価作成日	平成 23年 6月 25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成23年7月12日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

自然に恵まれている”くおん”です。
季節を感じられるように生活の中に取り入れ、食材の工夫、ドライブなどでメリハリをつけています。
また、病院との連携もスムーズで往診、予防接種、検診に医師自ら来てくださいます。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

地域行事への参加や家族会などが充実しており、地域やご家族との連携が十分に図られている。また、職員の資格取得をはじめとする資質向上の取り組みに対して事業所がバックアップしており、成果も出てきている。
入居に際して、利用者の生活歴等の情報収集が詳細の的を得ており、そこからの介護計画およびサービス提供後の評価についても、しっかりと職員間で話し合うことができている。
地域と一体となって防災訓練を行っており、また大震災における教訓を踏まえ非常食等の備蓄を進めているほか、自家発電についても検討を加えており、発生した課題については、代表者以下職員一同で真摯に取り組んでいることが伺えるホームである。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3くらい 3. 利用者の 1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3くらいと 3. 家族の 1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に 1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3くらいが 3. 職員の 1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3くらいが 3. 家族等の 1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3くらいが 3. 利用者の 1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大事に家庭的雰囲気忘れず介護しています。	代表者がホームを開設した際の想いを「ゆとりもたわり・思いやり」という理念に表し、スタッフ会議等で繰り返し職員に伝えながら、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、保育園行事などに参加し、大変利用者は喜んでいる。	地区運動会、お祭り見学、初詣等、地区行事に参加しながら、地域に溶け込む努力を行っている。隣に地区グラウンドがあり、相撲大会を見学できるなど、立地的にも恵まれている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の時、地域の方にも参加して頂き、説明をしています。又、相談にも対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	スタッフ会議の時、報告を受け、サービス向上に努めています。	運営推進会議の結果を受けて、その意見から苦情として取り上げ、改善につなげている事例が確認できた。また、地域の参加者からの意見も汲み上げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が行政に行き、連絡を取り、情報交換をしています。	運営推進会議には地域包括支援センターや、行政職員も参加しているほか、市で開催している会議にも参加し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の時、管理者から説明を受けてます。理解して身体拘束しないケアに努めています。	身体拘束を行っている事例はなく、薬剤の効果等も含め薬剤師を招いて学習会を開くなど、身体拘束につながらないよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議、申し送りして話し合いをしています。注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり学ぶ機会、話し合うのではないと思う		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネジャーが対応しています。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時、意見交換をしています。スタッフ会議の時、報告を受けてます。	入居者の家族会を年3回開催しており、参加率も比較的高い。その中で意見や要望などを話してもらっている。その内容は、スタッフに伝達されサービス提供に活かしている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを取り入れ、職員の意見を聞いて、反映しています。	代表者と管理者も参加している毎月のスタッフ会議のほか、ユニットごとの話し合いの場もあり、また毎日のミーティングを通じても職員が意見を出しやすい環境となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の資格を取るよう進めて下さり、職員も向上心を持って働いています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から、研修の勧めがあります。又、自ら研修の希望があります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流、情報を参考にして、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、話を聞くように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、要望等に耳を傾けている。 管理者と相談をしながら、要望に答えるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に洗濯干し、たたみ、料理の手伝いなど行っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、近況報告、介護計画を説明して、意見を聞いています。利用者が、家族と交流をとれるように努めています。		
20	㊦)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	利用者が希望される所にドライブしたり、近くで知り合いがいると訪ねています。	前からの人に面会する機会を設けたり、菩提寺を訪れる機会を設定するなど、馴染みの人や場と関係を続けていくことができるよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングなどで、歌、踊り、昔の話をして孤立せず支え合えるように、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者、ケアマネージャーが対応に努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いのペースに合わせています。	入居前に、生活歴、名前の呼ばれ方、一日の日課、好きな色、得意なもの等、一人ひとりの違いをしっかりと分析する中で、意向を把握できるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族などからの情報を得ています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活を送れるように支援しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の意見を聞き、管理者、職員で話し合い介護計画を作成しています。	毎月のスタッフ会議で利用者一人ひとりの様子について評価しており、また家族とのコミュニケーションを通しながら新たな課題がある場合には、それを介護計画に反映できるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員で話し合い、実践して、必要に応じて介護計画の見直しをしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが毎日楽しく暮らしていけるよう支援しています。利用者、自ら楽しみを見つけて過ごしている時もあります。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合いをしたうえで、希望されるかかりつけ医、薬局等に努めています。	本人のかかりつけ医に通院の支援を行っており、現在は4か所の病院に通院している。薬局については、ご家族と話し合いながら一か所にまとめ、薬剤師との連携を取りやすいようにしている。日頃から薬剤師に電話で問い合わせながら支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に相談し、支持を仰いでいます。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、ケアマネージャー、看護職が対応しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全職員で打ち合わせをして、できる限り努力しています。 家族と話し合いをして、努力を得ています。	入居中に状態が悪化して支援した事例があったものの、現時点では、看取りに関しては、ホーム内の医療的ケアの提供体制が不十分であり、実施しない方針であることを確認した。	重度化や終末期に対するホームの方針について、事業所内で整理するとともに、決定した方針について文書等で本人や家族等と確認できるような体制を築いていくことについて検討を期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練をしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会いのもと、訓練は行っています。地域の防災訓練にも参加しています。	地域の防災訓練は集落住民の半数近くが炊き出し等に参加しており前日の準備からホームから参加した。今回の大震災における教訓を踏まえ、食糧や器具の備蓄をしているほか、自家発電についても検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、十分気をつけています。	一人ひとりを尊重した言葉かけや接し方について、管理者が最も注意している点であり入居者の尊厳を保持できるよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるような雰囲気にはしています。利用者から要望があった時は、実行しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、楽しく過ごせるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	家族の了解のもと、地域の理美容院に行ってます。 服装へのアドバイスをしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話をしながら、一緒に料理を作ったり、片付けをしています。	利用者の希望を確認しながら、共通の材料を使用しながらもユニットごとに異なる献立としている。準備や片付けなど共に行っているほか、ユニットによっては誤嚥防止の歌を歌うなど、楽しい食事となるよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量、確認して記入しています。カロリー計算も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけ、介助で全利用者、口腔ケアをしています。週一回、入れ歯のポリデン洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な人の排泄パターンを把握しており、さりげない誘導、声かけを行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握することにより、オムツが取れた事例もある。ユニットに3か所のトイレがあり、利用者が排泄の自立を図りやすい環境にもなっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、体を動かしたり、長座位をとっていただいたりなど、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認した後、会話をしながら、ゆっくりと入浴をしています。	家庭浴槽を用いてのマンツーマンでの介助となっており、利用者のタイミングに合わせて入浴介助をしている。以前は夜の入浴を希望する方がいたことから、夜間帯の入浴支援も行っていった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動、散歩、外気浴などで、夜間眠れるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見たり、分からない時は、看護職、薬局に相談しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割を大事にして日々過ごしています。外での食事、買い物、ドライブなどしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩、ドライブ、近くの足湯に出かけています。家族との外出、食事などの支援をしています。	天気が良ければ毎日外に出られるようにしている。ドライブのほか、近くのホールなどに音楽鑑賞に出かけるなど、利用者個々の希望に合わせて外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回、買い物に行き、本人へお金を渡し、支払いをしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングでゆっくりと過ごされている。又、季節の花を玄関、リビングに立てられています。中庭もきれいに整っています。	共用のリビングについては広さがあり、さらに小上がりもある。またトイレが1ユニットに3か所あるほか、採光については、直射日光を避けながらも明るさが取れるような採光窓（排煙窓）を設け、居心地の良い空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	テレビ前のソファで利用者同士、くつろいだり、小上がりで横になったりと思いいいに過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた生活用品など、持ち込まれてすごされています。	居室内には使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう、家族に依頼している。仏壇やタンス、鏡台やベッド、じゅうたんなどが持ち込まれ、一人ひとりに合わせた居室づくりがなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の間違いを防ぐため、トイレ、居室に大きく目印を表示しています。		